平成26年度 大安場史跡公園 第2回企画展

田村町御代田甚日寺

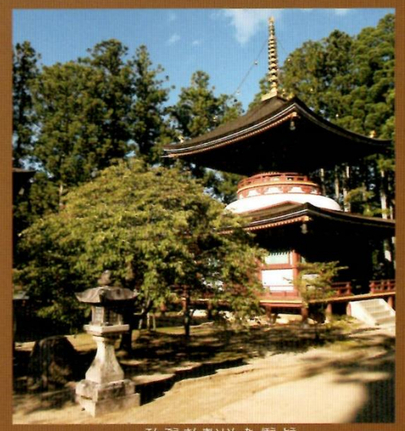
両界曼荼羅と密教世界

1.密教と弘法大師

密教を広めたのは、遣唐使だった最澄と空海です。特に、唐で密教を本格的に学んだ空海は恵果和尚の跡を継いで密教第八祖となり、帰国後に高野山や東寺（京都）で活動し、真言密教を確立させました。

曼荼羅を用いた全ての人の救済とこの世での生存中に仏陀と同じ存在となる「即身成仏」が、教えの中心です。そのために曼荼羅を使った灌頂という儀式を行い、身密（仏の手のポーズ、印相を結ぶ）、口密（仏の悟りの言葉である真言を唱える）、意密（心の中で仏の世界をイメージする）の三密の実践を説いています。

なお空海は、承和元（834）年から宮中の真言院で国家鎮護の最大儀式の後七日御修法を執り行い、密教を平安時代で最も重要な宗教に育て上げました。翌年に入定し、醍醐天皇から弘法大師の諡号が贈られたのは、延喜21（921）年のことです。



■高野山に建つ金剛三昧院多宝塔

国宝　鎌倉時代　和歌山県

■大日如来像（甚日寺蔵「金剛界曼荼羅」の一部）

金剛界の大日如来は、最高の悟りの境地を表す智拳印を結んでいます。

■五大明王像（甚日寺蔵）

絹本著色　縦99.2×横42㎝（本紙）

江戸時代

■五鈷杵（永山祐三氏蔵）　長さ20.8㎝　鎌倉時代

儀式に用いる金剛杵の一種です。弘法大師像の右手に必ず描かれる重要な密教法具で、両側にある槍先と4本の刃が特徴です。

この五鈷杵は、現在は廃寺となった羽黒派修験の清水山行法寺（須賀川市）に伝わっていたものです。

■弘法大師像（甚日寺蔵）

絹本著色　縦96×横40㎝（本紙）　江戸時代?

真言八祖像の1枚です。第一祖のインド僧龍猛～第七祖の中国僧恵果は紙に、弘法大師だけが絹布に描かれていますので、大切な像だったことがわかります。

2.恵光山甚日寺

田村町御代田の恵光山甚日寺は、徳一開山の伝承がある真言宗智山派の古刹で、阿武隈川の岸辺に建っています。お寺の扉は、年に一度、月遅れ七夕の8月7日だけに開かれ、この日に御代田の佐藤一族を中心とした12軒の檀家が集合し、両界曼荼羅や五大明王像、真言八祖像、十二天像などの寺宝が開帳されます。

（金剛界曼荼羅）

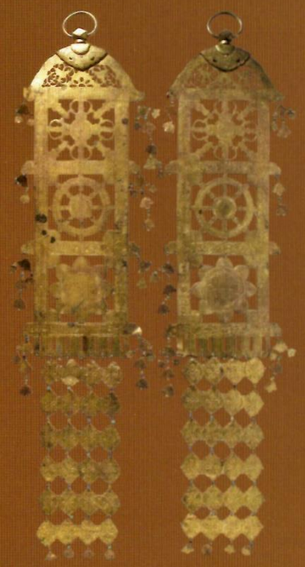
（胎蔵界曼荼羅）

■両界曼荼羅（甚日寺蔵）

郡山市重要文化財

絹本著色 室町時代

各縦104.0×横83.0㎝（本紙）



■玉幡（甚日寺蔵）

金銅製 高さ79.0×幅16.0㎝ 江戸時代?

堂内を飾る荘厳具の一種です。本体部分には、密教仏具の三鈷杵を十字に重ね合わせた羯磨や車輪をかたどった輪宝、ハスの花を上から見た模様が透かし彫りされています。

■五智宝冠（甚日寺蔵）

金銅製 高さ20.7×径23.0㎝ 江戸時代?

金剛界大日如来や菩薩の冠で、5枚の板に大日如来（中央）と阿閦（東）・宝生（南）・阿弥陀（西）・不空成就（北）の四如来をタガネ打ちで点描しています。宝冠全体は、花弁や葉文の透かし彫りで飾られています。

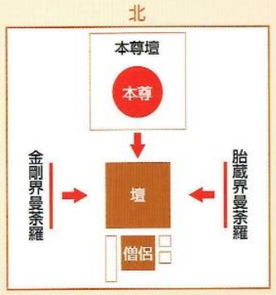
■伝大日如来坐像（甚日寺蔵）

木製 高さ57.0㎝

阿弥陀如来に宝冠と胸飾りに瓔珞をつけ、大日如来としたものです。

3.両界曼荼羅

密教世界を表象するのが両界曼荼羅です。「大日経」を図解した胎蔵界曼荼羅と「金剛頂経」を図解した金剛界曼荼羅の一対の曼荼羅をいい、祈願成就のため用いられました。堂内中央に壇を置き、東に胎蔵界、西に金剛界を掛け、本尊と僧侶は南北に向き合います。四者の力が中央の壇に集約され、願いが成就すると考えられています。



金剛界曼荼羅 九会配置図

金剛界曼荼羅

金剛界曼荼羅は、金剛石(ダイヤモンド)のように堅固な悟りの心を表現しています。画面の上方で忍者のように智拳印を結ぶのが大日如来で、宝冠や飾りの瓔珞を身に着けたゴージャスな姿で描かれているのが特徴的です。

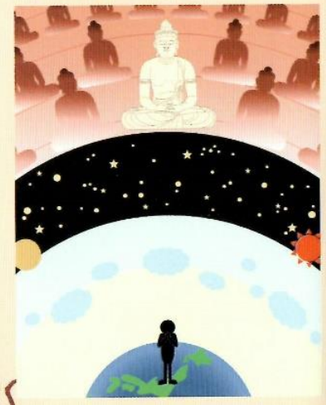
胎蔵界曼荼羅

胎蔵界曼荼羅は、母親が胎児を慈しんで育てるように、曼荼羅の中央に描かれた大日如来が、人々を救い育てる精神を絵画化したもので、409の諸尊が整然と配置されています。

中心から外に向かうほど諸尊の姿が小さくなることや如来や菩薩などのなじみ深い仏が配置された院には、下地に細い金箔線の截金文様で装飾されていることが鑑賞のポイントです。

宇宙空間が描かれた外金剛部院(最外院)は、驚きの世界です。太陽系の惑星や星座の星々が、仏の姿で描かれています。そして星の位置は、宇宙の外側から私たちを見守る諸尊の目線で表現しているため、地上から見える配置とは左右(南北)が逆になっています。

人々と宇宙、仏との位置関係



胎蔵界曼荼羅 十二院配置図

※上記の両界曼荼羅図は、甚日寺蔵両界曼荼羅図の截金文様を復元し、金剛界曼荼羅の尊像を画像処理で再構成したものです。

主要な尊像等の名称

①大日如来
②宝幢如来
③開敷華王如来
④阿弥陀如来
⑤天鼓雷音如来
⑥普賢菩薩
⑦文殊菩薩
⑧観自在菩薩
⑨弥勒菩薩
⑩一切遍知印
⑪不動明王
⑫降三世明王
⑬般若波羅蜜菩薩
⑭大威徳明王
⑮勝三世明王
⑯聖観自在菩薩
⑰馬頭観音菩薩
⑱如意輪菩薩
⑲不空羂索菩薩
⑳虚空蔵菩薩
㉑文殊師利菩薩
㉒月光菩薩
㉓妙音菩薩
㉔千手観音
㉕飛天(二位)
㉖一百八臂金剛蔵王菩薩
㉗地蔵菩薩
㉘日光菩薩
㉙火天
㉚増長天
㉛阿修羅
㉜閻魔天王
㉝羅刹天(涅哩帝王)
㉞水天
㉟広目天
㊱弁財天
㊲鳩摩羅天
㊳月天
㊴風天
㊵兜率天
㊶帝釈天
㊷毘沙門天
㊸伊舎那天
㊹日天
㊺持国天
㊻大梵天

九曜

㊼月曜(月)	㊷土曜(土星)
㊽火曜(火星)	㊸日曜(太陽)
㊾水曜(水星)	㊹羅睺星
㊿木曜(木星)	55彗星
51金曜(金星)	

十二宮

56羊宮(おひつじ座)	62弓宮(いて座)
57牛宮(おうし座)	63蝎虫宮(さそり座)
58男女宮(ふたご座)	64秤宮(てんびん座)
59蟹宮(かに座)	65磨竭宮(やぎ座)
60師子宮(しし座)	66賢瓶宮(みずがめ座)
61小女宮(おとめ座)	67双魚宮(うお座)

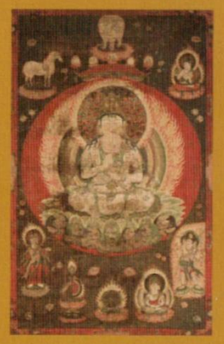
二十八宿

68角宿(おとめ座アルファ星)	78虚宿(みずがめ座ベータ星)	88参宿(オリオン座ゼータ星)
69亢宿(おとめ座カッパ星)	79危宿(みずがめ座アルファ星)	89井宿(ふたご座ミュー星)
70氐宿(てんびん座アルファ星)	80室宿(ペガスス座アルファ星)	90鬼宿(かに座シータ星)
71房宿(さそり座パイ星)	81壁宿(ペガスス座ガンマ星)	91柳宿(うみへび座デルタ星)
72心宿(さそり座シグマ星)	82奎宿(アンドロメダ座ゼータ星)	92星宿(うみへび座アルファ星)
73尾宿(さそり座ミュー星)	83婁宿(おひつじ座ベータ星)	93張宿(うみへび座ウプシロン星)
74箕宿(いて座ガンマ星)	84胃宿(おひつじ座35番星)	94翼宿(コップ座アルファ星)
75斗宿(いて座ファイ星)	85昴宿(おうし座17番星)	95軫宿(からす座ガンマ星)
76牛宿(やぎ座ベータ星)	86畢宿(おうし座イプシロン星)	
77女宿(みずがめ座イプシロン星)	87觜宿(オリオン座ラムダ星)	

4.多様な曼荼羅世界

密教では両界曼荼羅以外にも、いろいろな種類の曼荼羅が用いられています。現実的な目的の達成を願う信者の修法に使用するのが、別尊曼荼羅です。原則として大日如来以外の一尊を中心に諸尊が描かれ、願いに応じた形と色の壇の奥に、別尊曼荼羅を安置して護摩を焚き、現世利益の加持祈祷を行います。

密教以外の曼荼羅もあります。仏教系では浄土曼荼羅や「南無妙法蓮華経」の題目などを記した文字曼荼羅、神道系では神仏を混合させた垂迹曼荼羅や宮曼荼羅などです。



■一字金輪曼荼羅 ※1
(原本 奈良国立博物館蔵)
重要文化財 絹本著色
縦79.0×横49.5㎝ 平安時代(12世紀)

息災や増益、敬愛を祈願して修する一字金輪法の本尊。

■尊勝曼荼羅 ※1
(原本 奈良国立博物館蔵)
重要文化財 絹本著色
縦133.6×横82.5㎝ 鎌倉時代(13世紀)

増益や災害の消滅を祈願して修する尊勝法の本尊。

■大元師本身将部曼荼羅 ※2
(原本 醍醐寺蔵)
絹本著色 鎌倉時代(14世紀)

怨敵調伏を祈願して修する大元師法の本尊。

※1 奈良国立博物館提供　※2 福島県立美術館 研究紀要第3号より転載

5.郡山市の密教遺品

郡山市の密教文化や信仰の様子は、日和田町西方寺の木造大日如来坐像(福島県重要文化財・像高60㎝・鎌倉時代)や社寺に遺されている板碑(亡くなった親族や自分自身の成仏を願った石碑)や仏画、遺跡からの出土品にみることができます。

❶錫杖(西田町広網遺跡出土)

青銅製 高さ15.4㎝ 平安時代?

錫杖は遊行僧が手に持つ仏具で、平安時代の穴から金具部分が出土しました。遺跡の近くにある本宮市高松山観音寺(伝徳一開山 現天台宗)とも関係がありそうです。

❼阿邪訶根神社の板碑(大町)

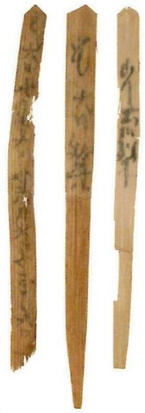
福島県指定文化財 凝灰岩製 高さ275㎝
治暦3(1067)年　平安時代?

法華経の一部を梵字で刻んだ曼荼羅碑です。福島県最大で、年号に間違いなければ日本最古の板碑ですが、後の時代に年号を追加したとの意見もあります。

❻呪符(荒井猫田遺跡出土)

木製 高さ23㎝ 文保2(1318)年 鎌倉時代

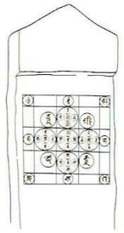
厄災を防ぐために呪い文を墨書したものです。写真の呪符には、金剛界大日如来を表す梵字の「ぁ(バン)」や「大日如来」と書かれています。



❷太子堂の板碑(富田町普路)

郡山市指定文化財 凝灰岩製 高さ130㎝
鎌倉～室町時代

金剛界曼荼羅中央の成身会を刻んだ逸品で、大日如来や周囲の諸尊は梵字(インドで使われていたサンスクリット語)で表現されています。



❸護摩堂趾の板碑(田村町甚日寺護摩堂趾から移設)

郡山市指定文化財 凝灰岩製 高さ189㎝
嘉暦2(1327)年 鎌倉時代

僧侶性公の48日忌に、ご坊の無上正覚(完全な悟り)を願い100人が集まり造立した曼荼羅碑です。中央の阿弥陀如来とそれを取り巻く聖観音菩薩の真言「オン・マ・ロ・リ・キャ・ソワ・カ」を梵字で表しています。碑の下段には「臨終の時に家族や財産、地位はついてこないが、戒(過ちを犯さず)・施(恵み)・不放逸(精進する)は今世後世とも伴侶となる」の意が草書体で刻まれています。

❹屋敷内の板碑(富久山町北小泉)

凝灰岩製 高さ153㎝ 文保2(1318)年 鎌倉時代

字屋敷内の墓地にある曼荼羅碑です。中央に金剛界大日如来の「ぁ(バン)」が置かれ、周りには大日報身真言の「ア・ビ・ラ・ウン・ケン・ソワ・カ」と刻まれています。早世した娘が大日如来の力を借りて成仏できることを願い、49日忌に建立したものです。

❺大元師明王像(田村町田村神社蔵)

絹本著色 縦96.0×横42.0㎝(本紙) 江戸時代(伝狩野探幽筆)

中央に3面8臂(顔が3つ、腕が8本)で体に多数の龍が絡みついた大元師明王が立ち、足元には2童子、火焔の上部には右手に毛扇を持つ釈迦如来が描かれています。悪魔や怨敵を鎮める降伏の力がある明王で、元禄2(1689)年4月29日には松尾芭蕉も訪ねています。

平成26年度 大安場史跡公園 第2回企画展「田村町御代田甚日寺 両界曼荼羅と密教世界」

会　期：平成26年11月1日(土)▶12月14日(日)　　会　場：大安場史跡公園ガイダンス施設
休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、次の平日)
主　催：郡山市／郡山市教育委員会／大安場史跡公園(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)
編　集：大安場史跡公園(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)
〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地 TEL.024(965)1088 FAX.024(965)1090
E-Mail oyasuba@bunka-manabi.or.jp Web http://www.bunka-manabi.or.jp/oyasuba
協　力：恵光山甚日寺／田村神社／奈良国立博物館／佐藤礼壽／佐藤芳秀／遠藤昌弘／矢吹亀四朗／永山祐三(順不同・敬称略)

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C016975
この紙はFSC®認証紙です。
VEGETABLE OIL INK
紙へリサイクル可